

TECHNICAL AUDIO DEVICES LABORATORIES, INC.

TAD

TAD Reference One



TAD-R1 SPEAKER SYSTEM

OWNER'S MANUAL

日本語翻訳版

はじめに

このたびは、テクニカル オーディオ デバイセズ ラボラトリーズ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

このオーナーズマニュアル（取扱説明書）をよくお読みになり、正しくお使いください。特に本書の「安全上のご注意」は必ずお読みください。また、本製品を最高のパフォーマンスでご使用いただくために、本製品に接続する機器の説明書もお読みください。

なお、取扱説明書は後々お役に立つこともありますので「保証書」と一緒に保管してください。

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々の財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。



⊘記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。



●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。

もくじ

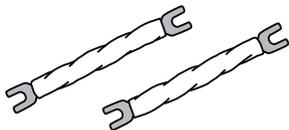
TADについて	4
TADの歴史	4
TAD Reference Oneの特長	4
テクノロジー	5
ベリリウム・ダイヤフラム	5
CST	5
ウーファー	6
CSTマウント構造	7
エンクロージャーの構造	7
クロスオーバー・ネットワーク	7
エンクロージャーの仕上げ	7
設置	8
設置のしかた	8
スパイクの取り付けかた	9
グリルカバーの取り外し	9
設置場所を決める	10

スピーカーシステムを接続する	12
シングルワイヤリング接続	12
バイワイヤリング接続	13
バイアンプ接続	14
バッチカルバイアンプ	14
水平バイアンプ	15
システムの調整	16
ウーファーのパフォーマンス向上のために	16
臨場感向上のために	16
最終調整について	16
スピーカーシステムのお手入れ	17
保証とアフターサービス	18
仕様	19

付属品の確認

アクセサリキットの箱の中に、以下のものが入っていることを確認してください。

- 短絡コード × 2



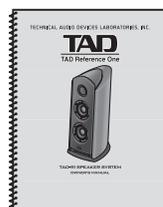
- クリーニングクロス × 1



- コーン型スパイク × 3



- オーナーズマニュアル (英語版) × 1



- 丸型スパイク × 3

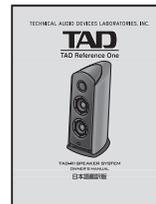


- 六角レンチ(開梱用) × 1

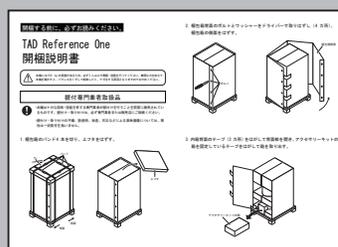


日本で販売される TAD Reference One には以下のものが付属しています。

- オーナーズマニュアル (日本語翻訳版 / 本書) × 1
- 保証書



- 開梱説明書 × 1 (外装箱に貼付してあります)



TADについて

TADの歴史

TAD (Technical Audio Devices) は、1975年の設立以来プロフェッショナル録音スタジオのスピーカーシステム製作を続け、プロユーススピーカーとして音の現場の最先端で活躍し、最高の性能を持つスピーカーとして揺るぎない地位を維持しています。TADの製品は、世界中のミュージシャンやプロフェッショナル向けオーディオシステム設計者の最も厳しい要求を満たすよう、至高の技術とノウハウを駆使し、設計、製作、生産されています。

TADスピーカーシステムのコンポーネントは、スタジオモニター、サウンドリインフォースメントシステム、講演会場やコンサートホール、映画館オーディオシステムなど、最高品質の再生能力が必要とされている多くのプロフェッショナルシーンで活躍しています。この高い品質水準により、世界トップクラスの録音スタジオではオーディオパフォーマンスのために、オリジナル録音やデジタルマスター録音にTADのコンポーネントを採用しています。

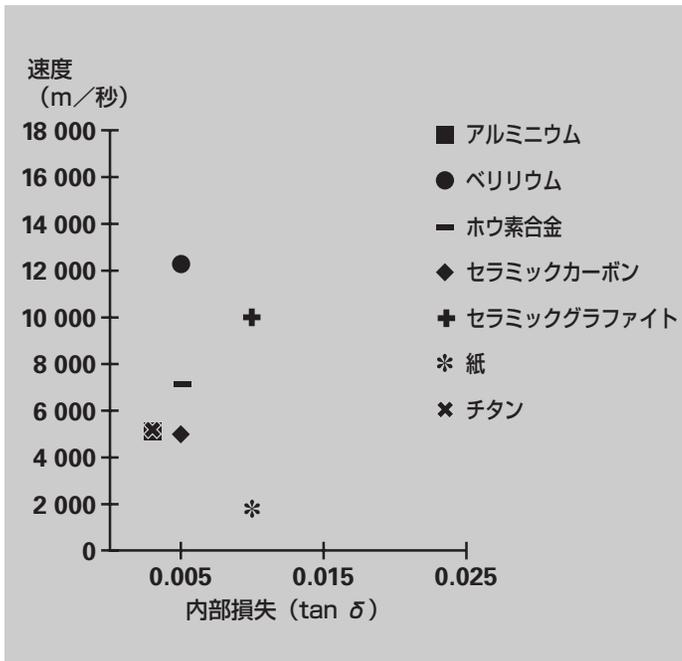
そして近年、ホームオーディオ市場から高品位なスピーカーの登場が待ち望まれるなか、TADブランドの実績を受け継いだ最高水準のオーディオコンポーネントをご家庭にお届けします。

TAD Reference Oneの特長

TAD Reference Oneスピーカーシステムは、ホームオーディオ市場では画期的な製品です。プロフェッショナルのスタジオモニタースピーカーとしてトップクラスのスピーカーシステム開発で30年という実績を持つ最高のクオリティを提供します。TAD Reference OneのパフォーマンスのコアはCST (Coherent Source Transducer) と呼ばれる、TADオリジナルのベリリウム・ダイヤフラム設計を特徴とする同軸ユニットです。ベリリウムをトゥイーター・ドームとミッドレンジ・コーンの双方に採用し、周波数域250 Hzから100 kHzをカバーするポイントソースラジエータを提供しています。CSTに加えて、2個の25センチ・ウーファーが新開発の高剛性キャビネットに収納されています。この結果、きわめて広帯域無共振の最高品質モニター用スピーカーシステムとなっています。

ベリリウム・ダイヤフラム

TAD Reference One スピーカーシステムは、ミッドレンジとトゥイーターのすべてのダイヤフラムに独自のベリリウム製作技術を採用しています。ダイヤフラム向けに利用できる金属の中では最も軽量かつ硬質なベリリウムの強度とダンピング特性は、現在ハイエンドのオーディオスピーカーシステム製作で使用されている素材の中で最高のパフォーマンスを実現します（第1図参照）。ベリリウムの軽量と比類ない強度を組み合わせると、ダイヤフラムの共振はドライバーユニットの動作帯域を大幅に越えたところまで広がります。これにより完璧に近いスピーカーのピストン動作が得られ、その結果、透明な音質と高精度の再生が実現されます。



第1図：ベリリウムとその他の素材の速度特性

CST

システムのコアとなるドライバーはCST (Coherent Source Transducer) です（第2図参照）。トゥイーター・ダイヤフラムはミッドレンジ・コーンの頂点に同軸で取り付けられ、250 Hzから100 kHzの音声のポイント音源となります。時間コヒーレント特性は、ベリリウムの優れた強度で実現されたミッドレンジ・コーンの浅い断面によるもので、精密にコントロールされた放射パターンを生じます。CSTによりリスナーの耳に達する直接音と反射音の完璧な周波数バランスが保証され、リスニングルームのどこでも均質なサウンドが得られ、臨場感が拡大します。

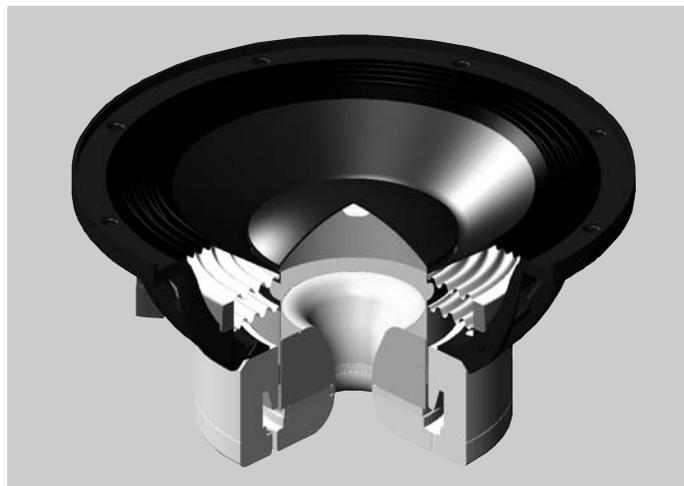


第2図：TAD Reference One のCST

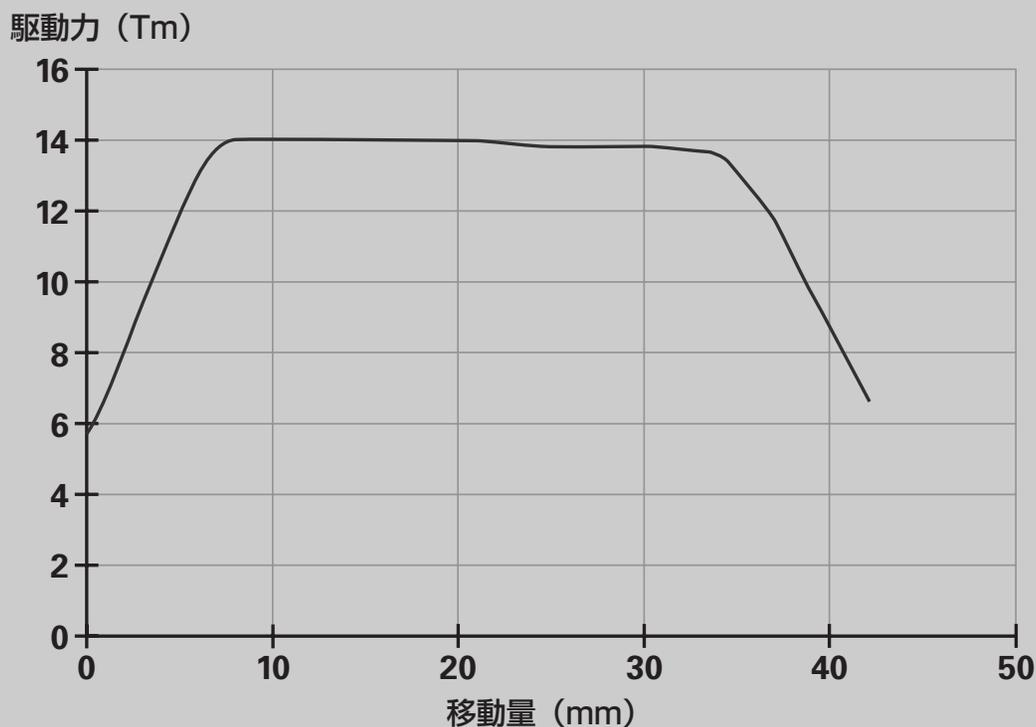
ウーファー

TAD Reference One スピーカーシステムの基盤となるのは、第3図に示すウーファーです。ドライバー・コーンは、発泡アクリルコアをサンドイッチ状に挟む両面織アラミド繊維によるトライラミネート構造です。これによりコーン強度はきわめて高くなり、低域大音量の通過で加わる強い力による変形を防ぎます。

大出力時のリニアリティを確保するために、モーター構造にショートボイスコイル/ロングギャップ構造、ファラデー・ショート・リング、新たな磁路設計を採用し、歪みの低減を徹底追求しています。最新のダンパー、マルチロール・エッジとともに、ウーファーは第4図のように30 mm 以上のリニアな駆動特性を持っています。



第3図：TAD Reference One のウーファー



第4図：TAD Reference One ウーファーの変位（移動量）－駆動力特性

CST マウント構造

CSTドライバーは、ドライバーからの音放射のふるまいを最適化するために形作られたヘッド部をもつ高剛性エンクロージャーにマウントされています。

また、パフォーマンスの向上をさらに追求するために、ISOドライブ技術を採用しCSTドライバーをエンクロージャーから構造的に分離しています。

これによりエンクロージャー振動の原因となる機械的エネルギーを大幅に低減し、遅れを伴う共振の低減と、細かなディテールの解像度向上を実現しました。

エンクロージャーの構造

エンクロージャーを無共振にできなければ、最高のドライバー技術でも満足なサウンドを達成できません。

TAD Reference Oneのウーファーエンクロージャーは、厚さ21 mmの樺合板を骨組みとして強固な枠組みを構成し、高周波加熱プレス成型した厚さ50 mmの側板と、最大137 mmのCNC加工合板を貼り合わせて形成されています。

また、バスレフのポート部は、TADのコンプレッションドライバーとホーン的设计思想をベースにし、徹底的に風切り音を低減しクリアで深い低音を実現しています。

さらに、強力なウーファアの駆動力をしっかり受け止め、ユニットの実力を余すところなく発揮するために、エンクロージャーを後方に4度傾け、スピーカーシステムの重心位置を最適化しています。

その結果、本体質量150 kgという重さと相まって、力強い低音再生とクリアで繊細な低音表現を達成しています。ティアドロップ形状は音の回折が低減され音場表現と強度的にも優れ、エンクロージャーの不要共振と内部定在波の排除にも貢献しています。

クロスオーバー・ネットワーク

クロスオーバー・ネットワークには最高の部品だけが使用されています。信号路内の空芯コイル、無誘導抵抗、フィルムコンデンサはすべて慎重に選択され、CSTドライバーに最適化されたもので、信号の透過性を最高度に維持しています。ウーファーは積層鉄心コイルを使用して、ハイパワー低サチュレーションを実現しました。すべての部品は肉厚銅配線の高級ガラスエポキシプリント基板に取り付けて、パフォーマンスの安定性と再現性を保証しています。

エンクロージャーの仕上げ

エンクロージャーは、希少で非常に美しい天然木を使用し、透明着色仕上げをほどこしました。表面は職人が時間をかけ丹念に磨きこんだ美しい鏡面仕上げとなっています。

本製品のエンクロージャーの表面材には天然木を使用しています。天然木ならではの良さを十分に引き出す仕上げをしておりますので、製品によりエンクロージャーの色・柄が多少異なります。

設置



据え付けについて

- ・ 本機は十分な技術・技能を有する専門業者が据え付けを行うことを前提に販売されているものです。据え付け・取り付けは、必ず専門業者または販売店にご依頼ください。
- ・ 据え付け・取り付けの不備、誤使用、改造、天災などによる事故損傷については、弊社は一切責任を負いません。



設置に際してのご注意

- ・ 本製品の総質量は 150 kg です。設置場所がこの質量に十分耐えられる床面であることをご確認ください。
- ・ また、スパイクを使用する場合、スパイク 1 個あたり 50 kg 以上の荷重がかかりますので、カーペット下の床や床面に跡や凹みができる場合があります。キズつきを避ける場合は、1 個あたりの底面の面積が大きく十分強度のあるスパイク受けをご用意ください。
- ・ 万一、地震により本機が転倒した際に、寝ている人にケガを負わせる恐れのある場所には設置しないでください。

設置のしかた

本機のキャビネット底面にはアルミのプレートが取り付けられており、床面が平らである場合は、そのまま設置することができます。

また、本機にはスパイクが 2 種類付属していますので、床面の状態に合わせて最適な設置方法を選ぶことができます。以下を参考にして設置方法を決めてください。

スパイク無し 平らな床面

コーン型スパイク 毛足の長いじゅうたん、カーペット

丸型スパイク 毛足の短いカーペット、床面が平坦でなく安定しない場合



コーン型
スパイク



丸型
スパイク

スパイクの取り付けかた



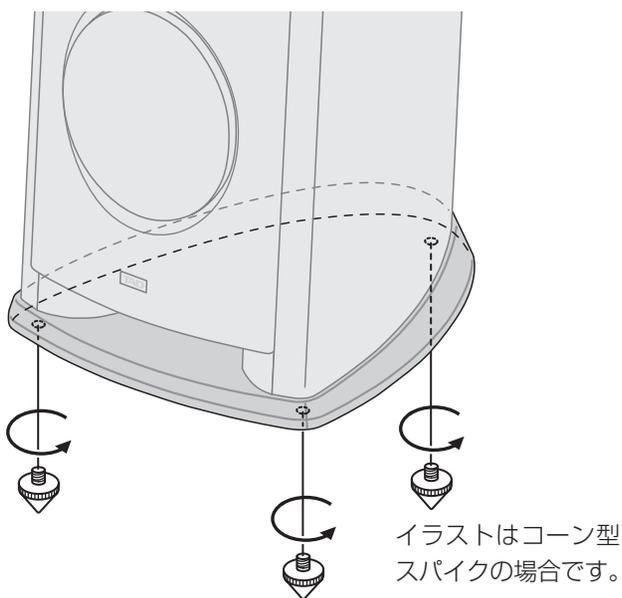
警告

スパイクの取り付け作業は、必ず2人以上で行ってください。取り付けの際には、スピーカーシステムに指を挟まれたり、スピーカーシステムが倒れないようにご注意ください。

設置場所の床面が平らでない場合は、スパイクを使用することで床に対してリジッドに設置することができます。スパイクはキャビネット底面に3カ所使用します。

3カ所で支えることで、スパイクの高さを微調整することなく、床面に対してがたつきなく設置することが可能です。10ページの「設置場所を決める」を参考に設置場所が決まったら、第5図に示す場所にスパイクを取り付けてください。

キャビネット底面のアルミプレートには、スパイクを取り付けるためのネジ穴があります。

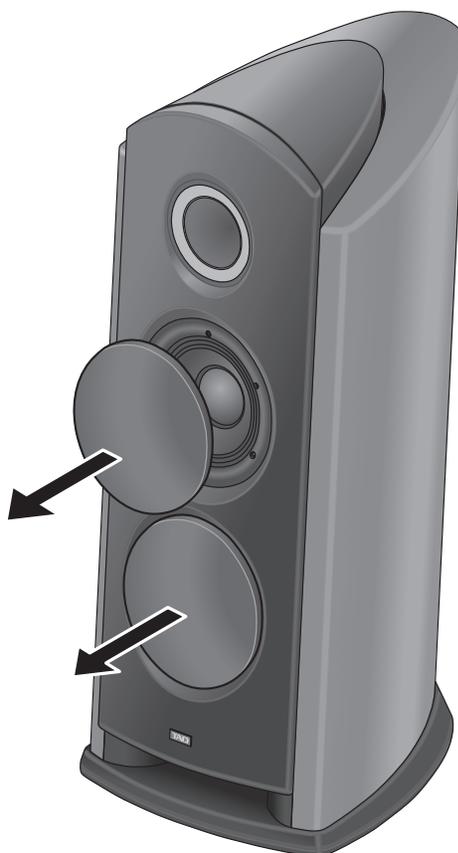


イラストはコーン型スパイクの場合です。

第5図：TAD Reference One スピーカーシステムへのスパイクの取り付け

グリルカバーの取り外し

ウーファーには、グリルカバーが装着されていますが、このスピーカーシステムをご使用の際には取り外してください(第6図)。グリルカバーを取り外すには、グリルの端を持って取り出します。外したグリルカバーは、本機の移動や保存の際に使用しますので、保管しておいてください。



第6図：TAD Reference One スピーカーのグリルカバーの取り外し

設置場所を決める

リスニングルームでのスピーカーシステムの設置状態は、低音の再生能力、音の正確性、臨場感の面で TAD Reference One スピーカーシステムの総合パフォーマンスに大きく影響します。部屋の環境によって設置のしかたが異なりますので、このセクションはガイドのみを目的としています。実際に部屋で設置を試してみることで、最適な結果が得られます。

はじめに、次ページの第 7 図のように、スピーカーシステムをリスニングルームの壁面から 30 cm ~ 60 cm 程度、両側の壁から 30 cm ~ 60 cm の場所に置きます。リスニング位置は 2 つのスピーカーシステムからほぼ等距離がよいでしょう。また、スピーカーシステムを内側に向けて各軸がリスニング位置を向くようにします。

次に、12 ページの「スピーカーシステムを接続する」で述べるようにオーディオシステムを接続します。

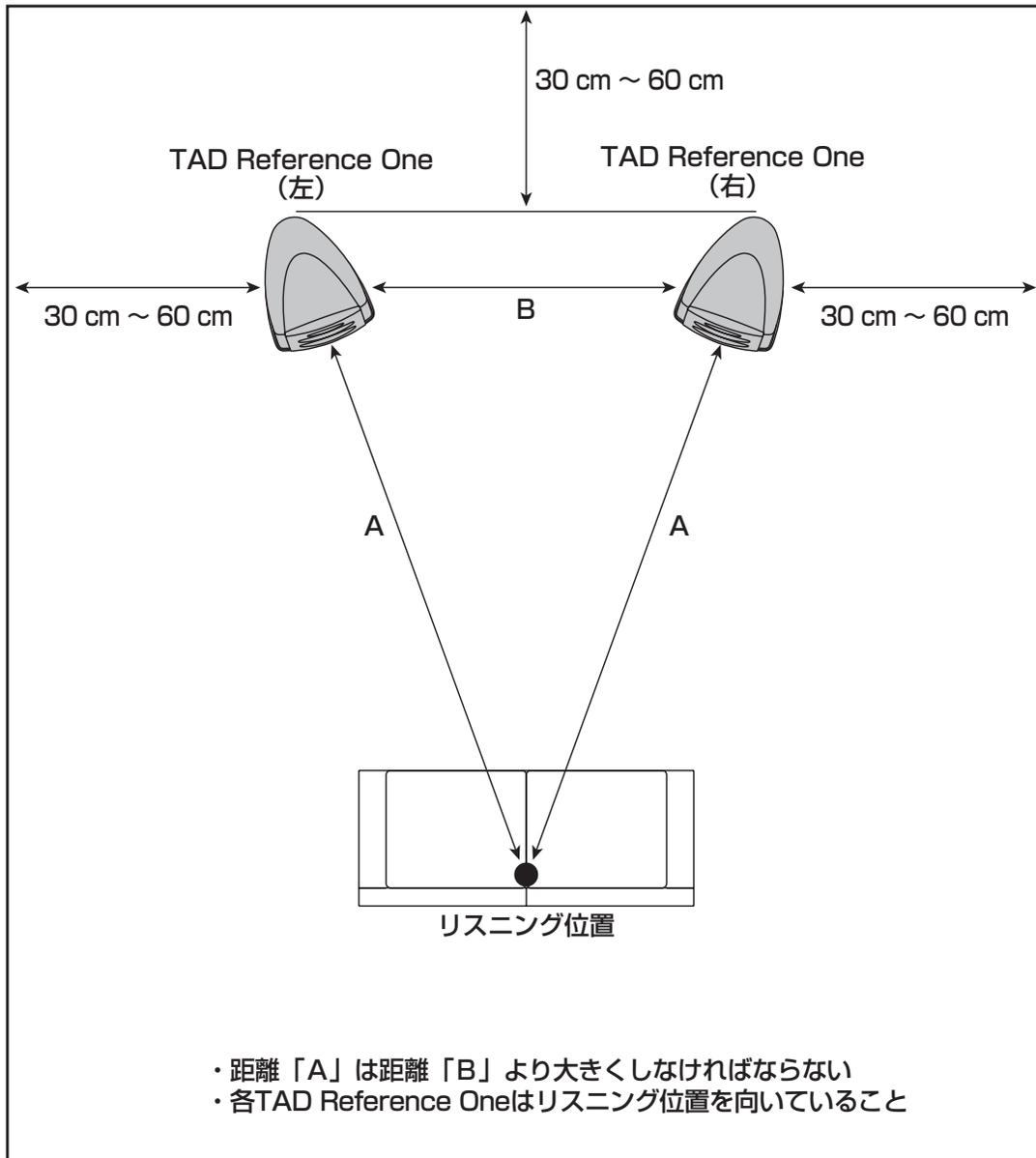
さらに、16 ページの「システムの調整」で述べるようにスピーカーシステムの設置を最適化します。



注意

スピーカーシステムにスパイクを使用している場合、移動の際に床面にキズがつく原因となりますので、設置場所を移動する前にスパイクを取り外してください。

スピーカーシステムを移動する際に床面にキズがつく恐れがありますので、本機の下に厚手のフェルトやマットなどを敷いてから作業を行ってください。

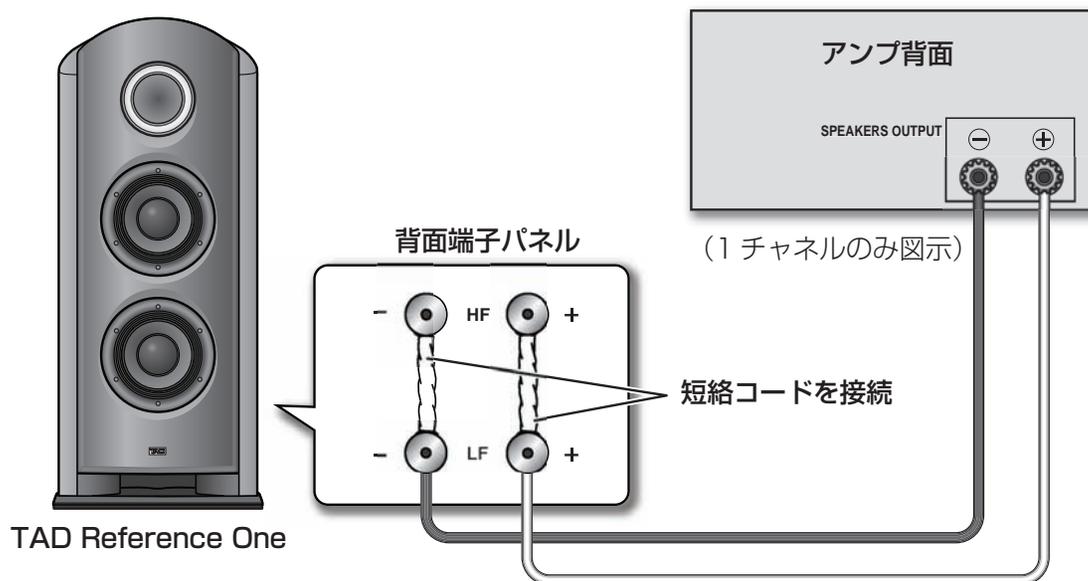


第7図：TAD Reference Oneの2チャンネルセッティング例

スピーカーシステムを接続する

シングルワイヤリング接続

シングルワイヤリング接続をするには、付属の短絡コードでクロスオーバー・ネットワークの低周波数(ウーファー部)域と高周波数(CST部)域の部分を結合します。第8図のように、短絡コードを使用して上下のHF (High-Frequency) 端子とLF (Low-Frequency) 端子を短絡させ、アンプからの(+)線をいずれかの赤の接続端子に、アンプからの(-)線をいずれかの黒の接続端子に接続します。

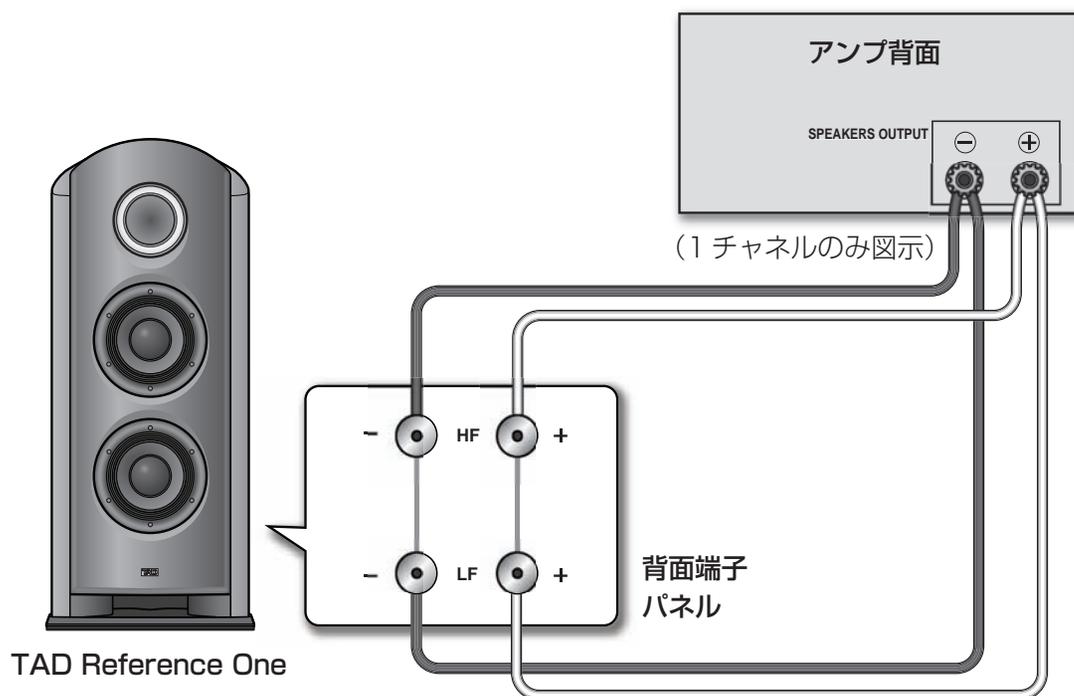


第8図：TAD Reference One の
シングルワイヤリング接続

バイワイヤリング接続

バイワイヤリング接続では、アンプからのスピーカーケーブルを個別に低周波数(ウーファー部)域と高周波数(CST部)域に接続します。これにより、TAD Reference One スピーカーシステムのウーファー、CST ドライバーが直接アンプに接続され、2つのドライバーに対してケーブルタイプを自由に最適化することができます。

一組のスピーカーケーブルを、LF 端子(ウーファー用ネットワーク)に接続します。そしてもう一組のスピーカーケーブルを、HF 端子(CST用ネットワーク)に接続します。次に二組のスピーカーケーブルをともにアンプの適切な端子に接続します。第9図のように、必ずそれぞれケーブルの(+)側をアンプの(+)端子に、(-)側をアンプの(-)端子に接続してください。



第9図：TAD Reference Oneの
バイワイヤリング接続

バイアンプ接続

バイアンプは、低周波数(ウーファー部)域と高周波数(CST部)域について専用のアンプを使用することで、TAD Reference Oneスピーカーシステムの最高のパフォーマンスを発揮できます。2つの接続方法が可能であり、一般的には水平、バーチカルバイアンプといいます。

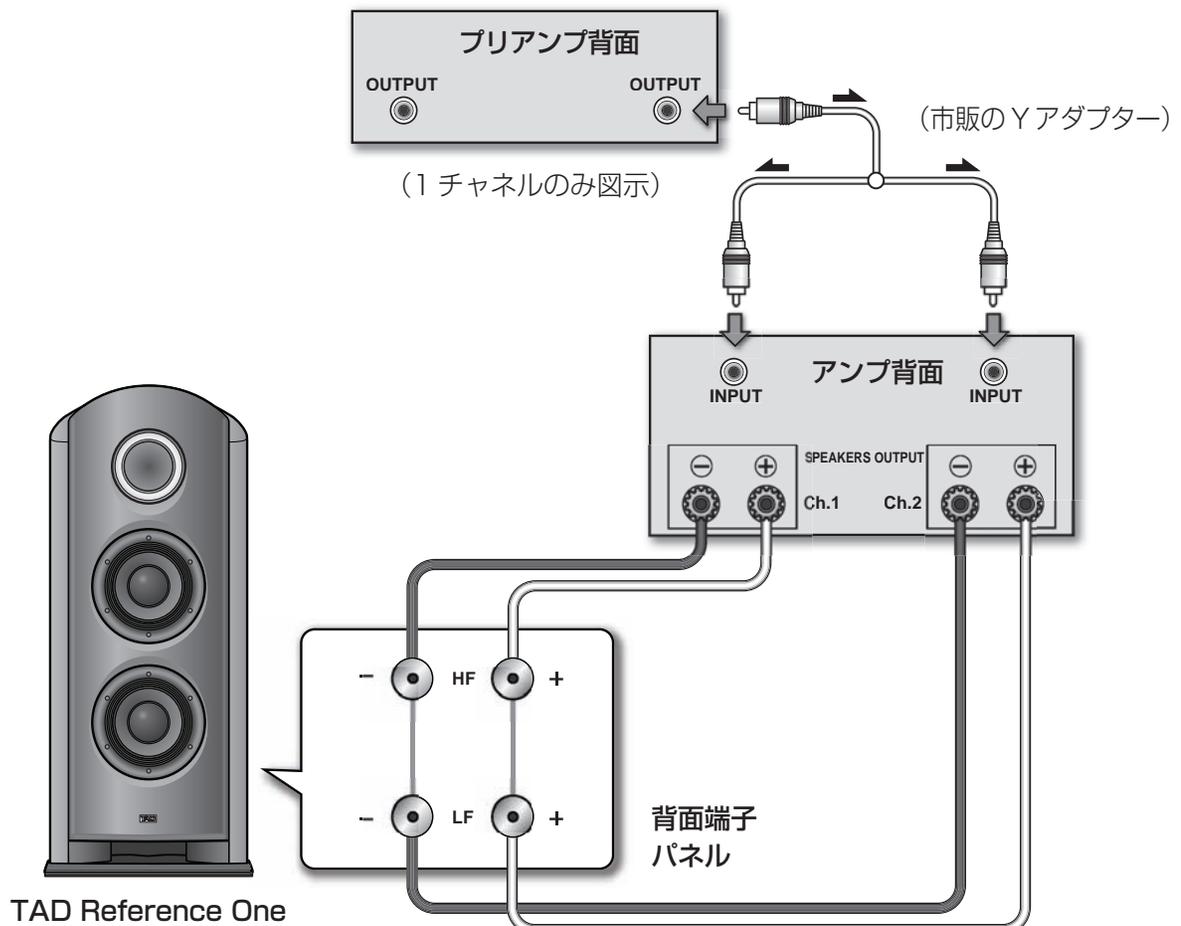


注意

バイアンプ接続をする場合は、スピーカーケーブルを接続する前に短絡コードを取り外してください。アンプを破損する原因となることがあります。

バーチカルバイアンプ

この接続では、同じステレオアンプを各スピーカーシステムに使用します。第10図のように、各アンプの1チャンネルで低周波数域を駆動し、他のチャンネルで高周波数域を駆動します。一組のスピーカーケーブルをアンプのチャンネルとLF端子(ウーファー用ネットワーク)に接続します。それからもう一組のスピーカーケーブルをアンプの他のチャンネルとHF端子(CST用ネットワーク)に接続します。必ずそれぞれケーブルの(+)側をアンプの(+)端子に、(-)側をアンプの(-)端子に接続してください。

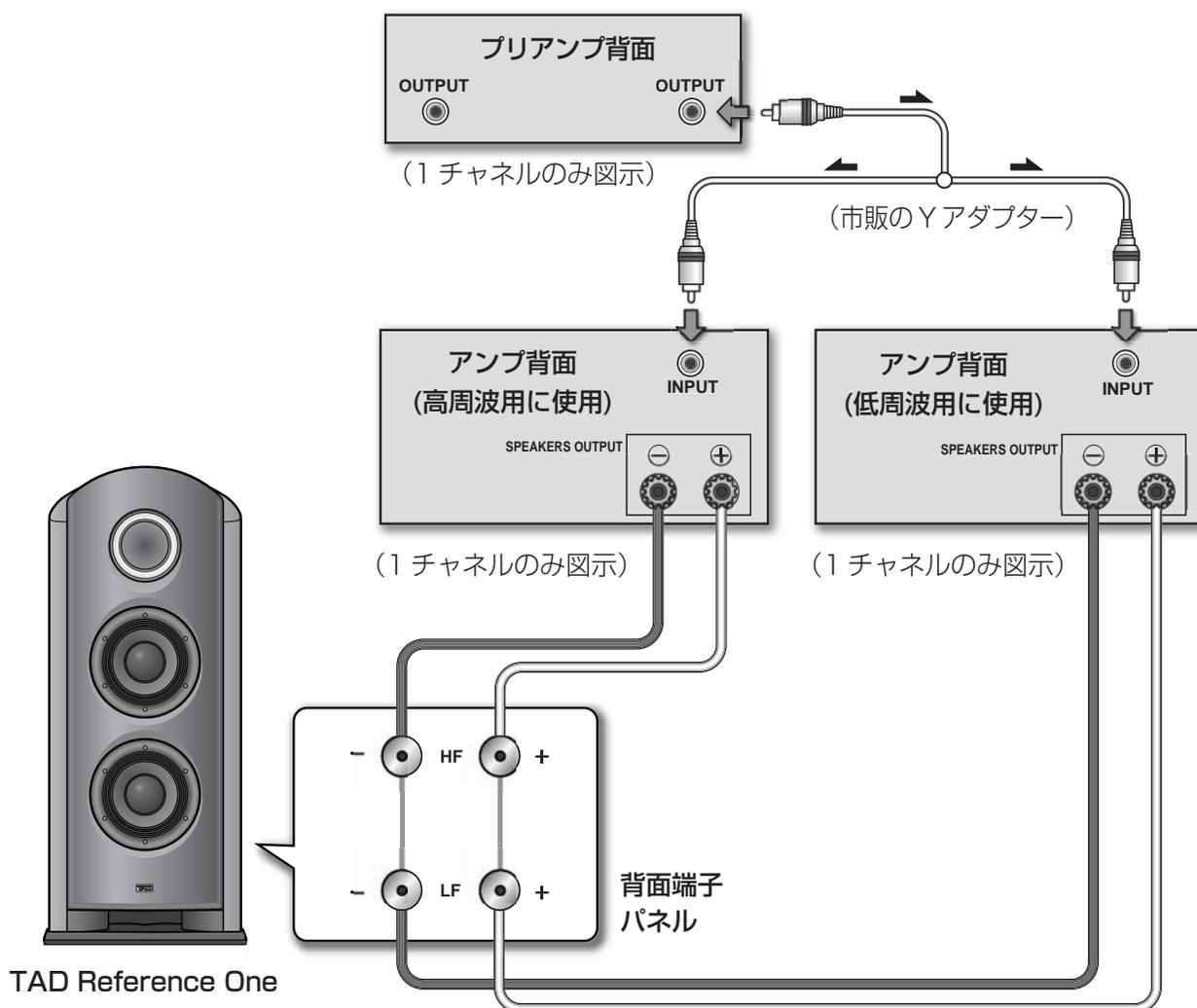


第10図：TAD Reference Oneの
バーチカルバイアンプシステム接続

水平バイアンプ

この接続では、異なるステレオアンプをスピーカーシステムの低周波数(ウーファー部)域と高周波数(CST部)域に使用できます(たとえば、高周波数に真空管アンプ、低周波数にソリッドステートなど)。第11図のように、1つのアンプの各チャンネルで各スピーカーシステムの低周波数域を駆動し、他のアンプの各チャンネルで高周波数域を駆動します。

この方式は、2つのアンプが同じゲインであることが必要です。そうでないと低周波数再生と高周波数再生の間でスピーカーシステムに不均衡が生じます。ご不明な点は販売店にご相談ください。



第11図：TAD Reference Oneの
水平バイアンプシステム接続

システムの調整

ウーファースのパフォーマンス向上のために

アコースティック弦楽器のベースのような低音がよく録音されている音楽を選びます。すべてのベースの音階がほぼ同じレベルであるかを聴きます。もし、いずれかの音が他の音より強調されているようなら、音階が最も均質になるまでTAD Reference One スピーカーシステムを移動させてみます。

通常は壁に近づけると低音のベース出力が増大しますが、音階の高い方で不均質になることがあります。側壁に近づけたときと背面に近づけたときでは同じ効果にはならないので、両方に動かしてみても最も快適な音になるようにします。ドラムの音も聴きます。キックドラムは低周波数のふくらみがなくタイトで速く聞こえると良いです。スピーカーシステムの位置が数センチ変化するだけでウーファースのパフォーマンスに大きな影響を生じることがありますので、時間をかけて多くの位置で試してください。

作業を早く済ませるための裏技は、人と話しながら室内を動き回ってもらうことです。声が反響なく最も自然に聞こえる位置を聴き分けて、その場所にスピーカーシステムを置きます。

臨場感向上のために

センターイメージの強い音楽を選び、その音像が正確にスピーカーシステムの中央に定位するように、焦点を合わせます。臨場感が不明確で広がってしまうときは、おそらく側壁が強い反射を起こしています。この効果を下げするためには、スピーカーシステムを中央に寄せます。これで近づきすぎるならば、リスニング位置の前方で軸が交差するようにスピーカーシステムの間に入ってみます。CSTドライバーの優れた軸外パフォーマンスにより、側壁反射の強さが低減して臨場感が安定し集中します。

また、きれいに録音されたアコースティック音楽を聴いて、臨場感が広く深いかを確認します。深さが不足しているとしたら、スピーカーが壁に近すぎるからです。その場合は、スピーカーシステムを前に移動してみます。

最終調整について

あるパフォーマンスを調整するためにスピーカーシステムを動かすと、他のパフォーマンスが低下することもあります（たとえば、臨場感の精度を上げると低音の応答性が悪化するなど）。このようなときは、リスニング位置を移動してみます。低音の応答性はスピーカーシステムとリスニング位置の双方に強く影響を受けますが、臨場感はほとんどスピーカーシステムの位置だけで決まります。したがって臨場感の調整で低音域が低下したら、リスニング位置を変更するとパフォーマンスが戻ります。

部屋の特長もサウンドに大きな影響を与えます。家具が少なく、床が硬い「ライブ」な部屋はサウンドに人工的な広がり感覚を与えますが、緻密さや正確さが低下します。家具が多く、じゅうたんやカーテンなどが多い「デッド」な部屋では乾燥した生気のないサウンドになり、十分なサウンドレベルまでスピーカーシステムを駆動するためにはかなり多くのパワーを必要とします。つまり、その中間に最適な場所があります。硬質で仕切りのない平行な壁、特に側壁は強いフラッタ型エコーを生じ、臨場感に悪影響を与えるので避けてください。カーテン、壁掛け、本棚で長い壁に仕切りを作ってみます。また、臨場感を損なわないよう、部屋のレイアウトがあまり非対称にならないようにします。

TAD Reference Oneスピーカーシステムはポリマー仕上げとなっており、グランドピアノと同様のお手入れが必要です。エンクロージャーにほこりや指紋がついたときは、付属のクリーニングクロスで拭き取ってください。



注意

エンクロージャーやグリルのお手入れには、クリーナーや研磨剤を使用しないでください。

本機はエンクロージャーの表面材に天然木を使用しております。直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くには設置しないでください。天然木の収縮によるエンクロージャーの変形、変色およびスピーカーが故障する原因になります。

人が不快に感じる環境は、スピーカーにとっても同じです。快適な環境でご使用していただくことにより、本来の性能を十分に発揮できます。ご使用場所の環境は以下を目安に、冷暖房装置および加湿器や除湿機などの使用をお勧めします。

温度：15℃～25℃

湿度：35%～65%（冬期） / 40%～70%（夏期）

- ・クーラーやストーブなどで、お部屋を急激に冷やしたり暖めたりすると、お部屋が乾燥しすぎることもあるのでご注意ください。
- ・外気の影響を受けやすい窓際などでは、結露する恐れがありますのでご注意ください。

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から3年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後8年です。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付センターにご相談ください。

所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。

連絡していただきたい内容

- ・ご住所
- ・お名前
- ・お電話番号
- ・型番：TAD-R1
- ・お買い上げ日
- ・故障の状況（できるだけ詳しく）

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。



ステレオ再生のエチケット：

ステレオの音量はあなたの心掛け次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間は小さな音でも隣近所へ通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。

仕様

TAD

商品名

TAD Reference One

型番

TAD-R1

形式

3ウェイ位相反転式フロア型

ドライブユニット

ウーファー：25 cm コーン型 x 2
ミッドレンジ/トゥイーター：同軸
16 cm コーン型
3.5 cm ドーム型

パフォーマンスデータ

再生周波数帯域： 21 Hz ~ 100 kHz (-10 dB)
25 Hz ~ 20 kHz, ± 3 dB : 前面平均特性
クロスオーバー周波数： 250 Hz, 2 kHz
適合アンプ出力： 50 W ~ 300 W
出力音圧レベル： 90 dB (2.83 V, 1 m 自由空間)
最大出力音圧レベル： 115 dB
公称インピーダンス： 4 Ω (最小値 4.1 Ω)
質量： 150 kg
外形寸法：
554 mm (幅) x 1293 mm (高さ) x 698 mm (奥行)

付属品

開梱説明書 (外装箱に貼付)

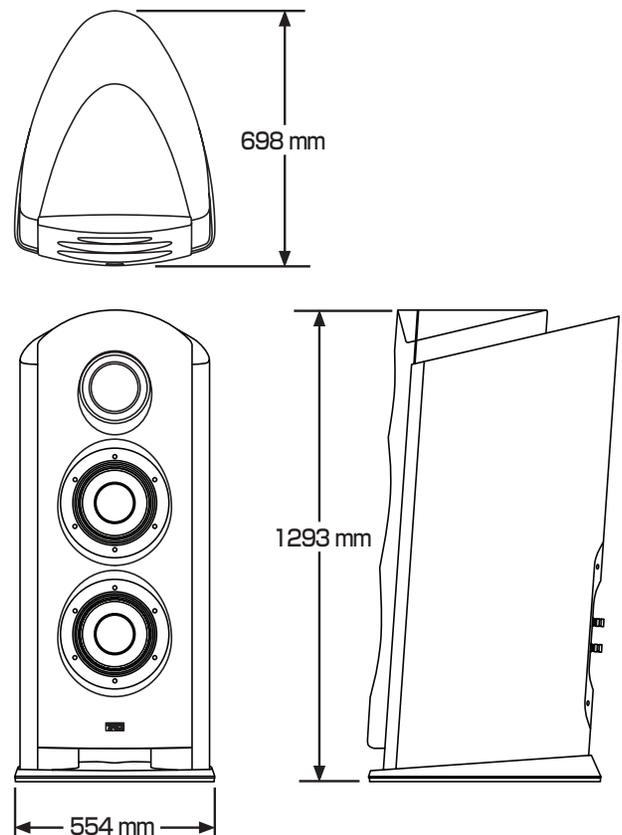
アクセサリキット

- ・クリーニングクロス x 1
- ・短絡コード x 2
- ・コーン型スパイク x 3
- ・丸型スパイク x 3
- ・六角レンチ (開梱用) x 1
- ・オーナーズマニュアル (英語版) x 1

日本で販売される TAD Reference One に付属：

- ・オーナーズマニュアル (日本語翻訳版 / 本書) x 1
- ・保証書

本書記載の仕様および構造等の詳細は予告なく変更することがあります。



第 12 図 : TAD Reference One
スピーカーシステムの外形寸法

商品についてのご相談窓口

- 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

パイオニアカスタマーサポートセンター TAD相談窓口

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00
(土曜・日曜・祝日・パイオニアカスタマーサポートセンター休業日は除く)

電話  0120-995-823

ファックス 044-572-8103

修理についてのご相談窓口

修理をご依頼される場合は、取扱説明書をご覧になり、故障かどうかご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

- お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

パイオニア修理受付窓口

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00
(日曜・祝日・パイオニア修理受付窓口休業日は除く)

電話  0120-5-81028 ※ 携帯電話・PHSなどからは、ご使用になれません。

一般電話 044-572-8100 ※ 携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ファックス  0120-5-81029

部品のご購入についてのご相談窓口

- 部品(付属品、取扱説明書など)のご購入について

パイオニア部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00
(日曜・祝日・パイオニア部品受注センター休業日は除く)

電話  0120-5-81095 ※ 携帯電話・PHSなどからは、ご使用になれません。

一般電話 0538-43-1161 ※ 携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ファックス  0120-5-81096

インターネットホームページ

本書以外に下記ホームページもご覧ください。

<http://tad-labs.com/support/>